

## 年 頭 ご 挨拶

社団法人日本産業車両協会  
会長 裏辻俊彦

皆様 明けましておめでとうございます。

平成24年の年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

東日本大震災の発生から約10か月が経過しました。被災地での復興に向けた動きも進み、原発事故についても収束が宣言されました。しかし、今でも30万人を超える方が、自宅を離れ避難生活を送っておられるとお聞きしております。一日も早く被災された皆様が故郷に帰れますよう心より願っております。

また、被災地の生活基盤、産業基盤の復興に対しては、私ども業界も港湾等へフォークリフトを提供させていただいたほか、会員各社も様々な支援を行われたと伺っております。こうした取り組みは継続が最も重要でありますので、今後もできるだけの取り組みを行ってまいりたいと思います。

さて、昨年の日本は震災以外にも様々な深刻な問題にさらされた1年であったと思います。産業界も急激な円高をはじめ、法人税、貿易自由化の遅れ、電力不足や労働・環境規制といった、いわゆる“六重苦”と言われる厳しい環境に置かれております。

また世界に目を転じて、ようやく世界同時不況を抜け出したと思う間もなく、ギリシャ・ショックをきっかけに、欧州において財政・金融面での不安が露呈し、EUによる危機対策も後手に回って、世界各国に景気後退の不安が広がっております。

こうした情勢の下、平成23年の産業車両の国内生産額は前年比約10%増の3200億円程度と見込まれます。震災によるサプライチェーンの断絶から、3月、4月は生産が大幅に減少しましたが、5月からはそれまでの落ち込みを取り戻すかのような力強い伸びを続けました。しかし、欧州の金融危機等を端緒とする景気の先行き不安から、年末に至って伸びが大幅に鈍化しております。

主力製品であるフォークリフトについても、世界の市場は1月から11月までの受注の累計で、新興国を中心に25%増加しておりますが、国内同様に勢いが弱まってきております。

来る平成24年度につきましては、世界経済の成長率は約3%、日本については2%程度と見込まれております。しかし、下振れリスクもはらんでおり、先行きは決して楽観できるものではありません。

産業車両の生産についても、緩やかな回復は続くと思込まれるものの、リーマン・ショック前の水準までは届くのは難しいと思います。

こうした状況の中で、日本産業車両協会が取り組んでいる事業の一端について、重点課題である「国際化」、「安全」、「環境」という3つのテーマを中心にご紹介させていただきます。

まず、フォークリフトについては、昨年5月に国内のフォークリフト販売会社で構成されていた日本フォークリフト販売協会が解散し、当協会が会員・事業の一部を引き継ぐこととなりました。これを受け、さっそくメーカー、販売会社のトップによるコミュニケーションを活発化させ、国内ビジネスの強化について、様々な取り組みを実行に移しつつあります。

世界の市場のウェイトが新興国に移りつつある中で、日本の市場が世界に占

める位置も縮小していることは否めませんが、やはりマザーマーケットを大切にしながら、そこでのビジネス基盤を固めて、世界との競争に打ち勝っていかなければならないと考える次第であります。

また、今冬も続く電力不足、そして将来に向けた原発依存からの脱却という大きな流れの中で、省エネや地球温暖化問題への対応については、国としても、産業界としてもますます大変重要な課題となっております。産業車両業界といたしましては、すでに「環境自主行動計画」における、製造過程からのCO2排出量を2008～2012年度の平均で1990年度比10%削減するとの目標達成をすでに確実にしておりますが、さらに省エネやCO2削減に貢献する製品の開発・提供に努めていくことで、問題の解決に貢献してまいりたいと思います。

また、フォークリフトを含む特殊自動車への排ガス規制については、今年の10月から段階的に、これまでより一層厳しい次期規制が開始されました。今後より広範な機種へ規制の対象が広がってまいります。世界で最も高水準となる規制に対応すべく、各社も製品の開発に努めておりますので、お客様に対して、その価値をしっかりとご理解いただけますようお願いする次第であります。

安全への対応については、本会は長年に亘り、内外の産業車両分野の安全規格に関する審議に積極的に参画しておりますが、4月には本会が原案策定に携わったフォークリフト関係の7つのJIS規格が制定・改正されました。そして国際規格ISOにおいても、産業車両の包括的な安全規格であるISO3691-1が9月に発行されました。

また日本フォークリフト販売協会が中心となって進めてきた国家技能検定によるフォークリフト整備技能士の育成についても、去年は200名を超える合

格者を加え、今後もお客様により安心いただけるサービスを提供して、フォークリフトによる事故の低減にもつなげてまいりたいと思います。

次に、無人搬送車システムの事業にあつては、会員企業がNEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）の「生活支援ロボット実用化プロジェクト」に参画することとなり、配送センター内の自動搬送作業の高度化に取り組まれておりますが、本会としても、これまで取り組んできた無人搬送車の追加安全対策の成果も活用いただいて、新たな安全基準の確立や物流業向け等の新たな需要の創出につなげていければと期待しております。

さらに、特殊自動車の届出業務につきましても、先ほど述べました排ガス規制への対応をはじめとして、環境・安全に関する社会的要請や国際的な基準調和の動き、さらには法令遵守の再徹底やリコール制度の適切な運用等に関して、業界としてしっかりと対応を行ってまいりたいと考えております。

このように、今後ともグローバルな視点の下で、環境に優しい、そして安全な製品の開発と供給を通じて、業界をさらに発展させ、世界中のお客様にご満足いただけるよう努めていかなければならないと考えております。

今年は9月に国際物流総合展が開催されますが、そこでは会員各社の最新の製品・サービスが展示紹介されると思います。ぜひ私ども産業車両業界の取り組みに今後ともご期待をいただければ有難く存じます。

さらに10月には、日本、アメリカ、欧州、中国のフォークリフトメーカーのトップが毎年1回一堂に会して開催している、アライアンス業界首脳会議について、今年は日本がホストを務め、京都で開催の予定です。これに合わせて各協会の会長による講演会「プレジデント・フォーラム」を併催いたしますので、

ぜひ会員の皆様をはじめ、ご関係の皆様にもご参加いただければと思います。

以上ご紹介したように、私どもは様々な取り組みを通じて、業界の基盤強化と社会的地位の向上を図り、業界の発展と繁栄が遂げられますよう、全力を尽くしてまいりたいと考えております。

ぜひとも会員の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げる次第であります。

さらに、経済産業省、国土交通省、環境省、厚生労働省をはじめとする関係御当局におかれましても、協会の活動に関しまして、よりいっそうのご指導ご支援を賜われますよう、心よりお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様のご健勝とご発展を、心より祈念して、年頭のご挨拶とさせていただきます。